

「深草の魅力『知って』・『感じる』体感プロジェクト」実行委員会 摘録

- 1 日時
令和3年1月21日(木) 15時30分～17時00分
- 2 場所
伏見区役所深草支所 第3会議室
- 3 出席者
別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 内容

	1 開会挨拶 [荒木深草担当区長]
	2 総合情報誌について (1) 総合情報誌の進捗報告 [まちとしごと総合研究所] ～意見交換～ 委員 表紙には、京阪電車や疏水など入っており「深草らしさ」があつてよい。 委員 マップの温かな色味はいいが、背景の黄色と文字のオレンジが少し見えにくい。工夫してはどうか。 京都駅への所用時間は、実際と異なるのではないか。再度調べてほしい。また、どこの駅からの所要時間か書くのはどうか。 写真が小さく、分かりづらい箇所がある。 (2) 配布先と効果測定の方法について [深草支所] ～意見交換～ 委員 只友ゼミ生作成ページに「深草・稲荷まち歩きマップ」QRコード記載予定。A4については裏表紙に入れることができれば良い。QRコードを読み取った人数などを確認することが可能。 転居するライフステージのタイミングを外さないように配布すべき。

<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p>	<p>若いターゲット層には web での配信がいいのではないか。測定方法は、閲覧数、ダウンロード回数などで可能である。</p> <p>京阪電車の駅での配架には社内の調整が必要である。</p> <p>京都子育てネットワークでの配布は可能である。</p>
<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p>	<p>3 今後の移住・定住の促進や、域内経済循環及び地域経済の活性化に向けた取組について [深草支所]</p> <p style="text-align: center;">～意見交換～</p> <p>コロナ禍で近所を楽しむという視点をもつようになった。この「楽しむ」視点を提供することで域内経済循環につながるのではないか。</p> <p>すでに深草に住んでいる人と移住者の交流会ができるといい。乳幼児の親子は、つどいのひろばや児童館へ行かれるのでそのような場所で交流の機会をもつことができると定住につながるのではないか。</p> <p>地域経済の活性化を図るためには、お金も必要になってくる。国の助成金を活用するなど具体的なお金のかけ方やとり方を検討すべき。</p> <p>直売所やマルシェ、手づくり市の開催を通して地域経済が循環していく。</p> <p>枚方市の五六市は、地域のリーダーが中心となり手づくり市が開催されている。地域のなかで、自走することが大切である。</p> <p>大学生もマルシェを通して、仕掛ける側として関わるができる。</p> <p>また、事業者同士の相互な学びやアクションがあるといいものが生まれる。</p> <p>行政が主体となって地域経済の活性化事業をするのではなく、事業者が自分ごととして参加できるようなシステムにしてほしい。また、手づくり市のなかにフリーマーケット要素があると、そこで会話して交流が生まれるため、子育て世帯のつながりづくりになる。</p>

委員	子育て層は、ふかふかカレンダー、はぐくみアプリ、お知り合いからの紹介によって、サロンやサークルを知る、入るきっかけになっている。
委員	行政だけで情報発信するには限界があるため、情報発信は民間のノウハウをどのように生かすのかが重要になってくる。民間の力を活用しながら、行政と民間の役割分担を明確にして、両者がwinwinになれる展開を目指してほしい。
委員	大学生などがまちの資源を知ること、深草で働くことにつながれば良い。
	4 閉会

(五十音順／敬称略)

	所属・役職	氏名
1	京都教育大学 教育学科 教授	徳岡 慶一
2	京阪ホールディングス株式会社 経営統括室 課長	岡田 洋
3	特定非営利活動法人京都子育てネットワーク 理事	木村 尚子
4	龍谷大学 政策学部 教授	只友 景士
5	京都市伏見区深草支所 地域力推進室長	上原 智子